

内山でおばあちゃんに なりたい!!

～島おこし協働隊 伊藤 麻子の明るい農村日記～

今や全国各地に広がった地域おこし協力隊。その先駆けとなった対馬では
現在6人が活躍中、卒業した1期生を含めると11人になりました。
今回の特集 **前へ ~go ahead~** は2年目を迎えた伊藤麻子隊員を内山地区にたずね、
お話を伺いました。今も昔も内山地区のシンボルになっている旧分校校舎で
行われているのは草木染め・五右衛門風呂・薪ストーブなどなど…。
一度行ったらやめられない? マジカル麻子ワールドにあなたを招待します。

内山地区



プロフィール

神奈川県小田原市出身。小学校時代から丹沢の山村で生活体験合宿に参加し、生物多様性や環境問題に興味を持つ。

大学では森林科学コースを専攻。社会人となり、環境コンサルタントの仕事で行き来していた対馬の魅力に惹かれ、協働隊の一員に。地域の人とのコミュニケーションこそが知恵の宝庫と現場での活動を主体に、次世代に続く魅力ある農山村の営みを目指す。せんだんごづくりにも励む34歳!

とその前に…

現在奮闘中の隊員6人による活動報告会が、2月24日に対馬市交流センターで行われました。主な取り組みを紹介します！

民間伝承保全担当



細貝 瑞季 隊員

上対馬振興部に所属し、地域資源を授業に取り込む「学びの充実」を図っている。上対馬高校の総合的学習では、生徒と共に、地域の生活を支える「海」についてのフィールドワークを行った。また対馬高校商業経済部のフリーペーパー「つしまんぶく」の作成、家庭でも学校でもない第三の学びの場を提供する「夏休み子ども寺子屋」にも携わり、地域の「伝統知」発掘に取り組む。

島の食材プロフェッショナル



佐藤 雄二 隊員

観光物産協会で、「食」に関する情報発信を行っている。「対馬どぶろく特区」（農家民宿を営む農業者等が地酒製造免許を簡単に取得できる）の認定に尽力。魚に関する講演会の開催や各種物産展への参加を通して「課題は食材に関する情報整理」。離島のハンディについては「対馬は知恵で補うことができるはず」と語る。

有害鳥獣ビジネスコーディネーター



谷川 ももこ 隊員

有害鳥獣対策室に配属され2年目。イノシシ・シカ防護柵や罠の設置状況、捕獲地点などをGIS（位置情報システム）にする活動は被害縮小のための対応に役立った。また肉をソーセージなどに加工する処理施設の稼働にも関わり、皮革を有効利用するためレザークラフト講座を通じて、多くの市民に有害鳥獣の対策の現状を伝えている。

島の森林再生チャレンジャー



吉富 諒 隊員

農林・しいたけ課において、市有林の利活用を検討する「森のコンシェルジュ計画」づくりに取り組んでいる。対象となる上県 of 山林において「希少生物相の保全」と「資源の経済的・教育的活用」の両立を目指す。都市圏における対馬の農林水産物の価値創造のためのマーケティング戦略にも余念がない。

生物多様性保全担当



伊藤 麻子 隊員

市民協働・自然共生課に所属する森林のプロフェッショナル。内山地区を拠点に置き、昨年度は廃校の空き教室を活用して草木染めや農村技術継承の場を設けるなど、地域資源を生かした自然体験や暮らしの循環を発信。廃校利活用の面でも注目されている。給食室は加工所に！お金をかけないおもしろ戦略とは？…。詳しくは次ページで紹介

島のタウンマネージャー



濱口 義典 隊員

対馬市商工会厳原支所に席を置き、中心市街地の活性化に取り組む。川端通り商店街の組織化を支援するため、商店や事業所へのアンケート調査を実施し現状分析を行っているところ。手つかずの自然や歴史資源など対馬の「強み」宿泊施設の不足、韓国観光客の消費拡大などの課題を踏まえ、元気な商店街をつくるため設計図の必要性を訴える。



○対馬の草木で染めもの体験

コアカソ・ノグルミ・ヤブランなど植物に着目した森林の専門家らしいアイデアで参加者に草木染めを教えています。分校裏のかまどは内山住民の手作り。里山の維持に繋がりたいと地元のわき水を使い、燃料の薪も山から採ってくるなど材料を対馬の資源でまかなうのが伊藤さん流。天気によっては草木の採取も参加者自らが行います。媒染液にも、残った灰を活用しています。

に感じることから始めたい
な体験教室がおもしろい！

初めて参加した山口さん家族

思った以上に芸術的に染められて良かったです。ビー玉と割り箸と大豆を使ったんですが、出来上がりがどんな風になるんだろうとすごくわくわく感がありました。また来たいです。



販売用に染めたストールや風呂敷も好評です

○自家エネルギーを考える「今どきの竈(かまど)づくりワークショップ」

小田原から講師を招きロケットストーブの仕組みを学びました。熱効率に優れ、お金のかからない薪ストーブは住民の間でも普及しはじめています。



分校にも設置

た旧久田小学校内山分校でグリーンツーリズムの要素を取りい
考える竈づくりのワークショップ」などを開催しています。遊
小じんまりながら月1~2回のペースで地道に続けています。
福岡からのリピーターもいるそうです。

○食資源の循環を目指して給食室を加工所として再活用

こんな取り組みも！

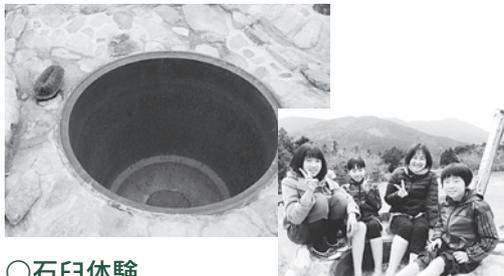
地域で収穫した農作物を、島内需要の見込める加工品にしたいと考える伊藤さん。給食室だった場所を改装して、住民みんなで使える加工所を作りました。お菓子や料理が好きな人たちと「うちやまおばちゃん会」を発足させ、来年度は商品開発にも力を入れます。かつて、対馬の地粉だった「赤小麦」の栽培も広がっていきます。



せん・赤小麦・内山の炭を活かしたお菓子の試作も続々と…

○露天の五右衛門風呂でいい湯だな～

「分校に五右衛門風呂を作りたい！」内山地区のみなさんに相談し、古い釜を譲り受けた伊藤さん。近くに住む内山副武さんが1ヶ月かけて作り上げ、石畳は住民やイベント参加者みんなで作りました。薪を使ったお風呂は足湯として、来場者を楽しませています。



○石臼体験

石臼でひいた地粉で団子汁づくり。農村の暮らしを肌で感じるひと時。



○炭焼き勉強会

地元住民が講師となった炭焼き勉強会を開催。里山の維持管理に目を向けるきっかけづくりに繋げていきたい。また、炭焼きは「ツシマヤマネコ」の生息環境をつくることにも繋がるので、地元団体「内山盆地の里やまねこ会」では、ツシマヤマネコ脱臭炭の製造と商品化も始めています。



「内山で遊ぼう」は来年度も行います！みなさん気軽に遊びにきてくださいね！



伊藤隊員がめざす地域資源を活用した手仕事の創出

対馬の農山村や漁村に住みながらできる仕事が増えれば、働く場所ができるだけでなく、暮らしも豊かに楽しくなるのではないのでしょうか？便利さのみを優先すると昔の知恵が消え、次の世界がおもしろくないものになってしまいそうなんです。なんだか落語を聞いているような人情味あふれる会話、縄文時代を思い起こさせるせんだんごづくり…。内山に来てからの日々は私のこれまでの人生で一番充実しています。興味のある人から入ってもらえればいいと思うんです。

少しずつ周辺の方々に助けてもらいながら、農村に残る伝統技術の伝承や資源の循環、ひいては多様な生き物が生息する環境づくりを目指していきたいと考えます。おばあちゃんになるまで過ごすであろうこの内山地区で…。



○空の教室

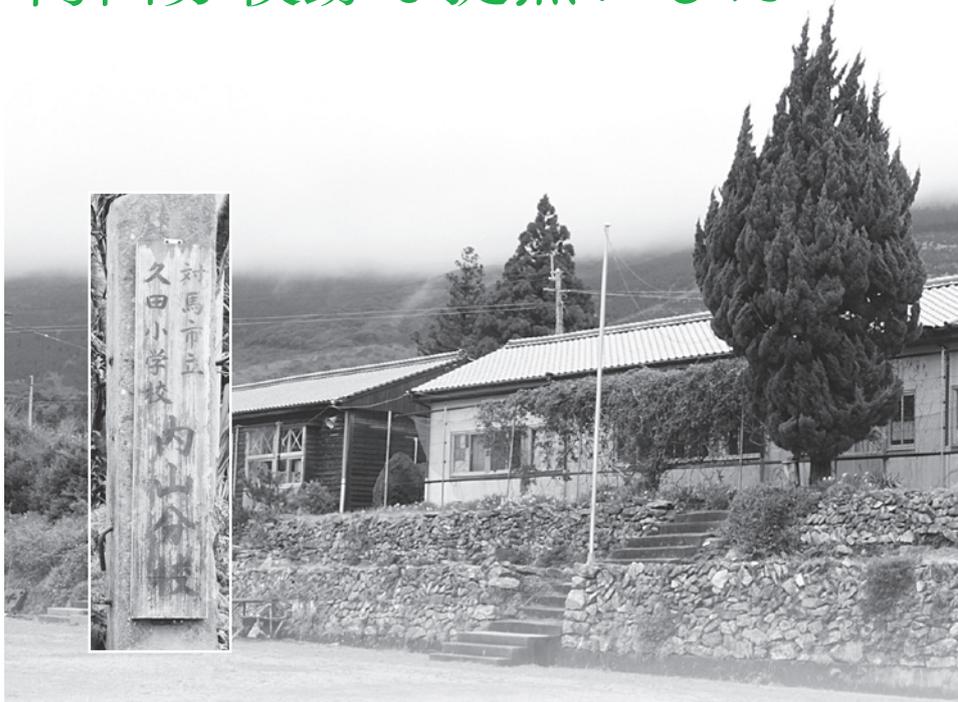


ラジコンヘリで空撮も!!

伊藤さんと「内山ふしぎ発見」という団体を結成しているのが、豆酩在住の栗原主好さん。航空機操縦士の資格を持つ栗原さんによる教室では、緑に囲まれたグラウンドで飛行機を飛ばし、空の魅力や大自然の魅力に触れることができます。

子ども達の歓声が学校を再び活気づけ、静かな教室も明るさを取り戻しています。

里山の役割と人の営みを身近内山分校跡を拠点にしたエコ



協働隊2年目の伊藤さん、昨年4月からは、8年前に閉校された体験イベント「内山で遊ぼう」をはじめ「エネルギーをびの中から対馬の自然や伝統文化に興味をもってほしいと、これまで約20回の開催で島内外より170人余りが参加し交流、